

第31回全国女性交流会に 参加して (11月6日～7日、湯河原)



中濃支部 林八重子

初めて国賠同盟の全国大会に参加しました。

黄色い署名はずっと前から母親大会などでさせて頂いていました。色々な会に入っている、国賠同盟に入会しても活動支援・会費はカンパの気持ちでした。今回全国女性交流会への参加を進められ、コロナ自粛になってから県外の集会には全く参加できていなかった、みんなの顔を見て話が出来た、交通費も出してもらえらるならラッキーと軽い気持ちで参加させてもらいました。

共産党の副委員長田村智

**岐阜県版
第389号
2022年12月15日**

治安維持法国賠同盟
岐阜県本部
〒500-8879
岐阜市徹明通7-13
岐阜県教育会館308号室
Tel 058-252-5366
振替00840-2-88638

子参議院議員の話聞いて、いままで署名に協力すればいいだけ思っていた「治安維持法犠牲者に国家賠償法の制定を求める請願」署名が実現させなければならぬものになりました。

田村智子さんは国会議員になっていろいろな請願や要請を聞く中で、この国はどうして何も戦争の責任をとらないのか、戦争の責任を国家が取っていないことが根本の問題としてあると思ったと言われました。

「防空法」という国の作った法律で、「逃げるな、火を消せ」と言われ、焼夷弾がおとされても逃げることをゆるさず、地下鉄の入り口がふさがれ、多くの人が焼け死んだ。その結果戦争孤児がたくさんできた。「天皇の赤子」と言われた子供たちが戦後浮浪児となり、野良犬のように追い立てられたり、邪魔者扱いされたり、苦しい生活を強いられた。けがをして障害を持った人もたくさんいるのに、何の保証もされていない。それはおかしいのではな

私たちの運動の基本 ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

- 一、治安維持法体制の復活に反対する
- 二、国は、戦前の治安維持法が、人道に反する悪法であることを認めること
- 三、国は、治安維持法の犠牲者に、謝罪と賠償をおこなう事

いか。国策でそうなったのだから国が責任を取るべきだと国会で取り上げたといわれました。

治安維持法で捕まった人々の中には、特高警察に拷問を受け虐殺されたり、刑務所内で虐待・暴行・発病で亡くなった人々もたくさんいました。犠牲者の家族や縁者も「非国民」「国賊」といわれ、一家離散、名前を変えてひっそりと生きてきたという人も多かったようです。治安維持法犠牲者は、戦争反対・政府の意に反することを言うだけで捕まるとわかっていても、間違ったことは間違っ



冬至

ていると言いつ続けた勇氣ある人たちです。

治安維持法は、日本がポツダム宣言を受諾したことにより、政治的自由への弾圧と人道に反する悪法として廃止されました。しかし、国の作為で引き起こされたこの弾圧による犠牲者への謝罪と賠償は、戦後60年経つた今日もおこなわれていません。世界では戦前・戦中の弾圧犠牲者への謝罪と補償が今も進んでいません。戦争犯罪と人道に反する罪に時効はありません。証言が残されているうちに犠牲者の実態を調べ、謝罪させて60年代に歴史的決着をつけなければなりません。と田村さんは言われました。

日本弁護士連合会も「日本国憲法の国家賠償規定からすれば、当然保証されなければならぬ」と言っています。

国賠同盟は、日本が侵略戦争を推し進めて人道に反する数々の罪を重ねたことをいまだに反省しない政府の認識を転換させることは、再び戦争と暗黒政治を許さないたたかいです。いま進められている憲法改悪や「戦争する国づくり」の動きを絶対に許すことはできませんと訴えています。お話を聞いて、戦争責任に向き合える政府、平和を作る政治政府に変えていかなければいけないと強く思いました。

2日目の分科会では、支部会議や学習会の

大切さを学びました。

呼ばれた時だけ参加し、代表にお任せするのではなく、忙しいけれど月に二回ぐらいはみんなが集まって、「治安維持法と現代」などで学習したいと思います。

伊藤千代子の映画を見て、国賠同盟に入ると言ってくれた人もいました。



中濃支部 岡本小夜子

悪法「治安維持法」が、二〇年もの間、民主主義を蹂躪し続けたことを教わり、「遺族の方々に少しでも力になれば」と思い、署名活動を続けています。

そして共謀罪はこの復刻版なので、かつての暗黒時代に後戻りさせないために即刻廃止を求めます。

当時は陸軍が権力を独占していたことが間違っていた。現代でも元安倍首相は自民党の規約を変えてまでもして三選の座について。結果、憲法違反も嘘も捏造も書き換えて何でもありの暴走で、この悪習に染まったままの現政権を変えない限り民主主義社会は望め

ない。我が共産党の田村氏の演説は心地良く聴くことが出来た。淀みなく次々と発せられる内容は明確的確を射っており、党の牽引車だと思えます。頼もしい方を直近で見られ励みになりました。とは言え、今一番危惧している事は、いつ世界大戦になるか分からないという情勢です。ウクライナ侵攻、中国、北朝鮮、温暖化、人口爆発、等々どれも何がきっかけで酷い方向に向かってしまうかもしれない。こういう危うい時にこそ冷静になって、各々が我を押さえながら譲歩も考えて互いを認め合う事が必要だ。

日本はせめて食料は自国でまかなえるようにすべきだし、エネルギーも国内の資源の活用を研究して欲しい。軍備に税金つき込むのではなく、全世界の中で平和を構築するよう努力していくのが平和憲法を有する日本の役割と考えるべきだ。

この地球がこれ以上汚れ傷まぬように生存していくためには、戦争の悲惨さ無意味さを地道に伝えていく必要があると思っています。そして権力者の欲望の餌食にならぬよう勉



強も大事だと思いました。署名を一人でも増やすために。

中濃支部 安藤百合子

全国集会に二回参加させていたとき、県支部の皆様へ感謝です。何より、田村智子さんのお話が近くで聴けるということで、胸ワクワクでした。田中中央本部事務局長より、現勢が過去最高で、二万人目標を達成することを決めたという報告に力強さを感じました。

映画「伊藤千代子」も全国で好評、「感激した、若い人にも観てもらいたい」との感想が多かったということで、私たちも映画を観た方々につなげていければ元気な支部になれると思いました。大石中央本部女性部長からは、10月の日本母親大会で「再び戦争と暗黒政治を許さない」を掲げ闘ってきた。伊藤千代子はじめ多くの犠牲者たちは日本国憲法の礎となった。今を生きる私たちは、憲法の理想を表現しなければならぬ、のアピールを紹介されました。女性差別に限らず、どんな差別も無くさない、権力者は「差別」をもって、私たちを「支配」し続けるのだと強く感じました。

なまの田村智子さんはやはり、期待通りの素敵な方でした。早稲田大学で民青に入り、学費値上げ反対運動に参加。入党は断り続けていたが、それは卑怯だと思いついて入党したと自己紹介され、親近感を持ちました。暮らして

経済を守り、憲法九条を活かして外交し、戦前の不屈の闘いを受け継ぎ、新しい時代を拓こう、と話されました。

分科会では、「治安維持法はなぜ悪法なのか」を学び、治安維持法は「思想、考え」までも罰した。治安維持法は生きている！一〇〇年前の話ではない！に心底こわさを感じました。秘密保護法、安保法制、マイナンバー制度、共謀罪法、デジタル改革関連法、土地利用規制法など、戦争と弾圧は手をつないでやってくる、「発動の時」を手ぐすね引いて待っている！私たちは阻止せねばなりません！世論として反対していくことを学びました。



可児・美濃加茂地区・映画「わが青春つきるとも」を上映

中濃支部 交告 ちづ

一〇月二二日、可児市文化創造センターで映画「わが青春つきるとも」伊藤千代子の生涯を上映しました。

可児市・美濃加茂市で五月に第一回実行委員会を立ち上げました。実行委員会に国賠同盟、年金者組合、新婦人の会、平和委員会、九条の会、国民救援会が参加しました。映画の自主上映は初めての経験で協力券の普及は大変でしたが、各団体のご協力で一七六枚を普及、当日入場者は一五九名、当初の目標を達成しました。

○会員拡大に取り組み

治安維持法の激しい拷問に耐え抜き信念を貫き通した若き伊藤千代子の生涯に学び、同盟活動を強く大きくするために、同盟への入会と、黄色い署名の訴えについて話し合い確認しました。

当日の感想文用紙に「治安維持法国賠同盟に加入しませんか」「もっと話を聞きたい」の欄を設けました。「加入してもよい」と三名の記入、「話を聞きたい」が七名でした。

早速声をかけ二名が加入、黄色い署名は五四筆集まりました。映画上映に会員拡大、署名に取り組んだ事はよかったですと思いました。

○学習会を計画

一〇月二六日に反省会、実行委員会を開催。「同盟に加入したい」「もっと話を聞きたい」

映画「わが青春つきるとも」 の感想

(各務原地区上映会、10月30日、
午前89名、31日、午後64名、アンケートより抜粋)

人達、同盟会員外の人達に同盟の歴史・活動を知って貰うために学習会を開催しよう、講師に「伊藤千代子の生涯」原作者藤田廣登さんをお願いしたい、との実行委員会の要望を中濃支部理事会に提案しました。その結果中濃支部として計画実行する事が決まりました。



○女性の参政権等ない時代があった。今は堂々と声を上げられるので、世の中を変えていきたいです。
○久しぶりに感動しました。涙が止まりませんでした。
○意志を最後まで貫くことに感動しました。
○戦前の軍国主義の恐ろしさが身にしもました。今の平和な時代、思想良心の自由、民主主義の素晴らしさ

が分かります。伊藤千代子さんのような先人に感謝し、二度と戦前のような道を進まないよう私も運動していきたいです。
○若いのに不屈の精神で生きぬいた千代子、すばらしいと思いました。
○自分ならすぐ転向します。伊藤千代子あまりの意志の強さに感動します。
○こんなに頑張った女性たちがいることを今日まで知りませんでした。みんなのために立ち上がる勇氣、とつてもすばらしい。
○こんな事があったとは、しらないとはだめですね。
○感動でした、女性の強さをあらためて実感しました。
○とても苦しそうな伊藤さんの様子が痛々しかった、つらかった。
○転向の問題をもっときちんと表現してほしい。映画のリリズムを追求しとあつたように思うが、感情的なものが、どんだん前面に出てしまったように感じました。
○一〇〇年を経ても同じ事ばかり人間はしているのですね。そして一〇〇年前のことを皆忘れたり、全然伝えられないで暮らしている。とてもシンプルで力強い映画と思いました。
○特高のいるような社会は二度とあつてはならない。
○今の平和の生活が出来自由に自分の意

見と言えるのは伊藤千代子さん他が信念をつらぬいた事がよく分かり、共産党の今があるのもわかりました。
○暗黒の時代に抗して信念を貫いた女性だとよく分かりました。信念の基には理論、学習の力だとも分かりました。不屈性とともに未来に生きているすばらしい作品でしたね。
○伊藤千代子がけつして意志や考え方を曲げることなく、最後まで、最後の最後まで頑張ったことに大きく刺激され、勇氣をもらいました。マルクスの思想をもっと勉強し、周囲に広めていかなければいけないと思いました。
○社会のために活躍した女性達の精神がすばらしいと思います。
○変節せず権力と闘い通した千代子の姿に感動しました。
○衝撃的な場面からのスタート。苦しい中でも、獄中闘争等工夫によつて脈々と闘いは続けられた。今も反共の逆風はあるし、ぬるま湯の状況もあるが、どんな時代でも闘い方は工夫し続けられることが力となった。伊藤さんたち先人の不屈の闘いが今の力、今につながっているなど改めて思う。チェ出して頑張らなくちゃ。
○よくこの映画製作して下さいました。女性の権利の歴史がよく分かりました。



○先輩たちの大変なご苦労で築かれた歴史に勇氣、今また危機！頑張ることの大切さ、大変さを強く感じました。

○前半がやや紋切り型です。後半がよかった。

○女性が選挙権を得るのに頑張って下さった先人に感謝しています。今回の映画で、まだまだ色々な方の犠牲により、今の生活がつけられていることを再認識し、感動、感激しました。

○昔のダン圧のすごさが分かりました。

原作(藤田廣登氏)が明らかにした伊藤千代子の生涯

- | | |
|--|---|
| <p>1905年(明治38年) 長野県諏訪郡湖南村(現・諏訪市)生まれ</p> <p>1912年(大正元年・明治45年) 湖南尋常小学校入学</p> <p>1914年(大正3年) 岩波家に引き取られる</p> <p>1918年(大正7年) 諏訪高等女学校へ入学、この年土屋文明着任</p> <p>1922年(大正11年)生徒総代で卒業証書授与、高島小学校代用教員、児童と弁当分け合う</p> <p>1924年(大正13年) 仙台・尚綱女学校入学。社会主義思潮と出会う</p> <p>1925年(大正14年) 東京女子大英語専攻部本課編入学、社会科学研究会結成に参加、ペーベルの「婦人論」でジェンダー平等に目覚める</p> <p>1926年(昭和元年・大正15年) マルクス主義学習会で浅野晃講師(東大新人会)と出会う</p> | <p>1927年(昭和2年) 「女子学連」結成に参加、岡谷の山一林組争議を激励、諏訪湖畔で浅野晃のプロポーズを受け入れ結婚</p> <p>1928年(昭和3年) 2月20日第1回普通選挙で労農党支援活動、2月29日入党、中央事務局員、3月15日未明 共産党印刷所で、特高警察に検挙、拷問取り調べ、市ヶ谷刑務所に収監、「資本論」学習に取り組む、獄中の同志たちと連絡を回復、リーダーに</p> <p>1929年(昭和4年) 未決のまま病舎独房に1年半収容。思想係検事による「転向」攻撃激化、女子舎房団結の中心に座り獄中一斉行動などをリードする。夫浅野の変節が決定的となり、懊悩続き拘禁精神病発症。8月17日、東京府立松澤病院に収容。軽快へ向うも肺炎併発、9月24日未明死去。</p> |
|--|---|

戦争と弾圧は手をつないでやってくるー治安維持法と今日

- | | |
|---|--|
| <p>2013年11月27日 国家安全保障会議設置</p> <p>2013年12月6日 特定秘密保護法成立</p> <p>2014年7月1日 集団的自衛権行使閣議決定</p> <p>2015年9月19日 安保法制＝戦争法成立</p> <p>2017年4月25日 沖縄辺野古米軍基地工</p> | <p>事強行</p> <p>2017年6月15日 共謀罪法成立</p> <p>2021年5月12日 デジタル関連6法成立</p> <p>2021年6月16日 土地利用規制法成立</p> <p>2022年7月10日 憲法9条改悪勢力参院で2/3超える</p> |
|---|--|

*映画「わが青春つきるとも」パンフレットより

戦争と音楽・「音楽は高度な軍需品」補足 音楽家の戦争責任について

岐阜支部 堀田 紀治

戦争に協力した音楽家達が戦後平和の歌を造り、又、童謡では改竄し生き延びている事に疑問を持つていました。本屋で音楽評論家佐々木光氏の「音楽家と戦争責任」という一文と出会い、この中に疑問に込める内容が書かれていました。その内容を紹介します。

①山根、山田論争おこる。

一九四五年アジア太平洋戦争は終結し、戦争協力のために創られた御用団体・日本音楽文化協会は、行き方を改めざるをえなくなり解散した。この直後、山根銀二と山田耕筰両氏の間には、「戦犯論争」が起った。

●山根氏は、音楽文化協会会長の山田耕筰氏のおこなってきた活動について、音楽壇の自由主義分子、ユダヤ系音楽家に

対する圧迫、警視庁を背景とした音楽家を強制加入させ、音楽挺身隊長として音楽家を威圧した、こういう旧楽壇の保守勢力が戦後においても温存され、偽装民主主義者として残っているが、こういう戦争犯罪人を駆逐し、組織を解体する事が音楽の民主主義的復興の条件であることを主張した。（「東京新聞」昭和二〇年二月）

●これに対し山田氏は「音楽文化協会は新体制運動の奔流の中で、貴方のヘゲモニーで創られたものでなかったか。ユダヤ系音楽家弾圧の問題も戦時中外国音楽家と協演せずという申し合わせとして発表したに過ぎない……」と答えた。（「東京新聞」昭和二〇年二月）

こうした応酬は、楽壇の支配的な立場にある人々の間の論争だけに、関心と注目を高めた。この「論争」が、発展すればなんらかの建設的な意味合いがあったといえるが、両者間に京極高鋭氏の仲介が入り、沙汰やみになってしまった。

②山田耕筰氏のおつぶやき

佐々木氏は、戦後、山田耕筰氏が日本楽劇協会によるオペラ運動の旗あげ公演をおこなった時、ふと漏らした言葉が忘れられることができないと、山田氏の呟きを紹介している。「私は戦後になって本当にガツカリした事がある。それは天皇が退任しなかったことだ。それまで天皇

に対して非常に尊敬の念を持っていたが、天皇は戦争の責任をとろうとしなかった。天皇が責任をとらないのに、どうして我々が責任をとる必要があるのか。山田氏を頂点とする音楽家の戦争協力態勢の組織は、そうした論理に拠り一切の戦争責任から免罪符を貰ったことになる。ここに戦後の音楽界の不徹底な自己批判のありかたが生まれたとみるのは過言であろうか。と述べている。

しかし、事実は山田耕筰の「戦犯」への疑いに対して、近親者からGHQに対して、もみ消しの運動が秘に行なわれ、それが幸をそうしたとの説がある。これが事実であるなら前記の山田氏の発言に照らし合わせると、微妙な意味をもつのではないか。

以上、日本に於ける戦争に協力した音楽家の責任についての追求が曖昧で、ここに心ならずも戦争に協力した音楽家の悩みがあるのではないでしょう。

